

## 令和4年度第2回 南丹市地域創生会議 議事録

■日 時：令和4年9月30日（金）午前9時30分～12時15分

■場 所：南丹市国際交流会館2F第1第2研修室

■出席者

委 員：新委員、今西委員、窪田委員、黒田委員、高御堂委員、谷口委員、谷委員、中越委員、廣戸委員、俣野委員

事務局：市長公室 國府公室長

市長公室企画財政課 井尻課長、片山課長補佐、富部企画係主任

■傍 聴：2名

### 1、開会(事務局)

・設置条例第6条第2項の規定に基づく会議成立報告

座長

本日は第2回の会議ということでヒアリングを行った後で、評価を確定していくという作業になる。どういう主旨かと言うと、まず後段の評価、これも皆さんお忙しい中ご対応いただき、大変詳しいコメントを多くの委員の方からいただいて有り難く思うところ。この評価、それぞれがいただいたものを私たちの会議として確定していく作業がゴールになる。この評価は、南丹市がやられているそれぞれの事業、取組についてどれほどの価値があったのか決めていく作業。しかしテストの点数をつけるのとは少し違う意味があることを再度確認しておきたい。

この地方創生というのは国が音頭をとって全国で取り組んでいる。難しいが、取り組むしかないという形で一斉にみんなで作るわけである。終わるとして地域特性を活かして働く場を、元々住んでいた方にも新しく移ってこられる方にも働く場を提供したり、安全で安心して気持ちよく住んでもらえる場を作ったり、さらに地域特性を皆で発見して輸出できる物を作ったり、観光に来てもらえるようにしようという、こういう大枠はおそらく変わらない。その中でどういうことをやるのかは、国とか府とか広域のものよりは各自治体、各地域の方が分かるだろうし考えてほしい、ということで色々な提案をしてくださいということ。そのいけそうな提案について、国が概ね半分負担し、新しい取り組みを色々されていると。やられている側の市役所としては殆どのものに自信を持っておられると思うが、改めて地域の各界の皆様が集まっていたいて、皆様からの評価もいただきたい。そしてそれ以上にこういったひとつのトライを見た上で、次どうしていったらよいのかというアイデアも頂戴したいというような主旨。国全体としてはこういう評価の中からちゃんと全国的に頑張っているのかの確認と同時に、この中から全国に広げていくような有望・導的な取り組みを掘り起こすという主旨でこういう評価の枠組を全国的にやっている。客観性、多様な観点から地域の各界の皆様にお集まりいただいているということなので、次に繋げていくというような観点で見いただいたら。実際、私自身が関わる事業も出てくるので、そうすると、なかなか自分では言いにくいということもあるが、客観的な目で見ると、改善していくような取り組みを見る。日

本全体で見たら他所の地域にも発信していったらよいのでは、という取組があれば見つけていく。そういうことでどうぞお力添えいただけたらありがたい。

書類だけで見て分からないものについてヒアリングということで今回、3つの課の方に来ていただいている。色々この機会にお尋ねになり、そこも踏まえて後ほどの評価確定していければ。

ということで長くなったが、社会を引っ張っている皆様の視点が合わさったところで評価するため、ぜひお力添えをお願い申し上げます。

## **2、報告:新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業について(事務局)**

座長

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金も評価対象となりますので、それについて事務局からご説明いただく。

事務局:

<参考資料に基づき令和3年度にこの交付金を活用した主な事業について説明>

令和4年度もこの交付金を活用し、コロナの感染拡大防止やコロナ禍で落ち込んだ地域経済の早期回復に加え原油価格や物価高騰により影響を受ける市民や事業者の支援に取り組んでいく。

座長:

こういう取組もある。皆様、これについてもし何かあれば。

(一同、特に意見なし)

## **3、議事**

座長:

ここから1時間程、まず地域振興課、ついで観光交流室、最後に商工課に各20分ずつヒアリングする。なかなか聞きにくいとは思いますが、それぞれの事業などについてこの際、実情をお尋ねになったり、考えておられるアイデアについて聞いてみるなどもあるかと思えます。

では例年のことではありますが、いくつかの分野を選び、もう少し詳しく実情を伺ってみたり委員の方で持っている認識などを話して、課の方ではどのようにお考えかお伺いをして評価の参考にしようという主旨でヒアリングをやらせていただいている。

### **■地域振興課**

座長:

では始めに地域振興課さんにお越しいただいた。今回、対象になっているこういう事業について伺いたいということでご準備をいただいているのは、事業番号の4-7~10になっている。概ね10時までぐらいを目途に委員の皆さんの方からそれぞれご質問やご指摘などいただいてご回答をいただこうと思う。

### **◇4-7 市民協働推進事業、◇4-9 大学等連携推進事業**

委員:

市民協働推進事業と大学等連携推進事業で、大学とか学生と協働する案件について。私も正直、

当事者でこういう制度をよく利用させてもらっているもので言いにくい面もあるが、やっている側としても少し大学の事情を理解したり、学生とか教員を待たずに大学に行って説明をしたり、大学の状況を捉えて取り組めば、より多くの応募があるのではないかと思う。かなり待ちの姿勢でやっておられて、私もこの南丹に出入りしているからこの制度を知っていて、概ね府大で私しか手を挙げないから使っているという感じになっている。学生とかもそういう南丹に入っている教員が学生に声をかけるというのが基本的に多い。そうでなければ学生が、たまたまHPを検索して興味を持ってくれるところに頼るしかないと思うのだが。もう少し大学に行って宣伝をされるとかした方がよいのではないか、ということは常々、実際に日々お伝えしているのだが、改めてこういう場で公式にご見解を伺ってみたい。

#### 地域振興課：

実態としては確かに指摘されているように、今まで交付金使っていただいているそれぞれの学校があり、事務局の方に案内形式の相談をさせてもらった結果で、事務局との調整で終わってしまっている。南丹市での学生の活動にも色んな考え方があり、推進委員会でも議論する中で、今年度の交付金からは、学生が南丹市に来て、主体的でなくても地域と何かをやってもらうというのが大事じゃないか、という結論で交付金の制度を一部改正した。

ただ、コロナ禍で、学生が地域の方に飛び込むのもかなりハードルが高い部分もある。今年度、大学連携事業で色んな活動されている市内団体と学生を結ぶ取組をやっているので、今後、交付金事業にも反映できたらと思う。ご指摘いただいたように、学生提案枠がこの1～2年振るわず、今年度も1件だけという状況。コロナ禍とはいえ、もう少し提案する必要はあるのかなと思っている。

#### 委員：

実際、コロナで学生が地域に出ないというのはもう理由にならない。私は凄く慎重派だが、それでも実際にどんどん出て行っている。地域の側が信頼していない、よくわからないのを嫌うというなら話は別だが、大学側はごく普通にどんどん飛び出して行っているという実情がある、というのが1点目。

あともう1点は、結局、やはり大学に足を運ばれて事務局にも学生にも南丹市の思いを直接伝えた方がいい。というのは、南丹市の交付金事業は少額の事業であるため。大学の事務局からしたら、何百万・何千万の財源を狙うセクションにこれを持って行くので、残念ながら20万円では「小さいのを持ってきて」と怒られる。こういう取組が大事なのだと私は頑張って主張している。面白いスタートアップができることもある。しかし、事務局的には非常に軽い。「送っておいてくれたらいいですよ。手を挙げる人がいたら出しますよ」程度の扱いになる。なので、営業に行つて「こういう思いがある。こんなことがやりたい」と言つて、事務局にも教員にも学生にもアピールしないと、なかなか掘り起こせない、ということを強く言いたかった。政策提案をするサークルみたいなのを集めて直接言うとか。授業で呼びかけるとか。何もやらずに待っていても、なかなか来ない。私自身が何年も何年も関わって思うところ。大学でお手伝いできることがあるかと思うので、ぜひ大学に行つてお話されたり、府大であれば私がセッティングして行つてでもやるので、ぜひお考えいただきたい。

#### 委員：

今の大学の話で、新聞記事で学校が色々と町中の作品を展示されたりとか、昔だったら企業と一緒に色んなデザイン的なイベントを開催されたり、色々と動いている。

さらに地域の課題が色々とあると思うので、いきなり学生に投げるのではなく、逆にそういう提案を色々と地域から拾って、学生と一緒にやりたいテーマがないか提案をされていったらどうかと。そんな

ことは今までされているか。

地域振興課：

今まで大学連携事業で地域と学生を結ぶ取組をずっとやってきた。学生は活動できる年数が限られている中で代替わりしてしまうので、なかなか継続は難しいところがあるが、少し視点を変えて別の形で。地域に足を運んでもらうようなきっかけを作ったりとか。今年度は団体主導で、例えば園部文化観光協会が事業をやるのに学生の意見や力を活かしたいと手を挙げていただいている、今学生を募集している。あとは日本語教室をされている団体が、学生と南丹市在住外国人との交流を企画されている。地域が学生に求めていることと、学生が地域に入ることができるのが、なかなか合致しないという課題はある。

委員：

今後に期待したいと思う。ぜひまた大学も、市内外問わず知っていただいて。発表会にも来ていただいているというが、府立大には5年ぐらいずっと案内を送っているのに1度も来てもらったことがない。もう少し各発表がどんなことをやっているのか見ていただいて、関わっている学生や教員の声も聞いていただいて何か変えていただけたらと思う。

#### ◇4-8 なんとん中間支援センター運営事業

委員：

相談内容をもっと具体的に知りたいという話だった。ご回答で基本的には分かるし、単なる書きぶりの問題だと思うが、まちづくりデザインセンターに相談された後、事業化に繋がったか相談者から話がないのでよく分からないと言われると、市の方でももう少し把握されてもよいのではないかと思った方が多いと思う。そこをもう少し詳しく伺いたいということと、センターからこの相談内容について件数は把握されていて、センターが凄く頑張っている印象は私も皆様も一緒だと思う。ただ、市が数字的把握にとどまり、完全に任せきりになってないか、市の方はちゃんと把握されているのか、ということを知りたい。そういうような観点でご説明いただきたい。

地域振興課：

センターからの令和3年度事業報告では、コピーや備品借用目的も含め770名程に1年間で来ていただいて、また、コロナ禍で直接は行きにくいという風潮もあり、電話で100件以上相談をされたりということもあった。

市の把握としては、相談して帰られて終わっている場合もあり、相談後に「PCで資料ちゃんと作れました」とか「規約が変更できました」という反響をいただいている場合もある。規約変更などの相談に来庁される方の中にも「デザインセンターに相談に行ってきた」というお話を伺っている。センターとは月に1～2回やり取りをしているので、互いの相談者について「こんな相談がありました」とか「こういうお客さんが行かれますよ」という情報共有をしている。交付金についてもなかなか市で細かく事前の相談が受けられない状況もあり、デザインセンターの方が交付金の事前相談窓口として2～3年前からお手伝いをいただいている。

委員：

多くの場合は、中間支援の団体をお願いして活動してもらうのは当然のことだと思っている。そのあ

たりで「丸投げにならずにできていますか」ということをこの機会にハッキリ伺ってみたかった。

地域振興課：

丸投げにはなっていないと思っている。

委員：

なるほど。緊密にやり取りをされながら、どういう実情だったのか把握しながら市としてのお考えも伝えてやってもらっているという認識か。

地域振興課：

そうである。また、地域団体の交流会などはセンター主催でもらうが、どういことをやっていくか、当日に何をするかを含めて色々と協議をした中でお互い一緒にやっている実情もあるので、完全に委託で丸投げということではない。

#### ◇4-10 小学校跡施設管理費

委員：

小学校跡施設管理費について、色々と活用しておられる担当の方とお話する機会がしばしばあって。今後について考えないといけないが、実際に入っている人たちの中でどうやって話を進めていったらよいかと凄く難しいと伺うことがある。地元の人だけだと話しにくいのではないかと感じる。例えば地域の住民の方だけでなく市が第三者的に入って話すとか、専門家の方が入って話すとか、そういった機会を考えているか、お考えでなければ検討しては。

委員：

アイデアを出して、担当部署がどうお考えになるかが大事。結局、私達なりの認識とかアイデアを照らして評価をするものだから、言いにくい、全然違うとか、実はやっているとか、そういうのを伺っておかないとずれた評価になってしまうので。勿論、コメントしがたい場合もあると思うが。委員の今のアイデアについても担当部署の方から何かコメントなどあれば。

地域振興課：

基本的に指定管理委託をしているもの。その管理施設の中に入っておられる団体との話し合いについては、行政として入る予定はない。その後の施設の利活用についても、基本的に指定管理者の組織の方で検討いただくという方法で今は進んでいる。その指定管理者からどうしても、というお話があれば、第三者的に入ることはやぶさかではないが、今のところその予定はない。

委員：

各地域の方に指定管理になっていただいて実績を活かして、というのはそれでよいが。令和6年度というタイムリミットが迫ってきている中で何かやろうとしたら、もっとお金がないと難しいとか、施設ごと、地域ごとに事情が違うように思うが。何か計画や類するものがあれば、追加の補助ができるのか。あるいは令和7年以降、自走しないとイケないような状況なのか。そのあたりちょっとピンときていないところもあるので、どういうことになっているのか教えていただきたい。

地域振興課：

小学校跡施設につきましては、他の事業ナンバーでもありましたように総務課が担当している4つの旧小学校と地域振興課が所管している7校の活性化センターとなっているものの、計11校が小学校跡施設として今南丹市に存在する状況。

当初は11校全て地域振興課で管轄しており、その後、活性化センターとして利活用されている小学校跡施設は地域振興課の方にそれ以外の残りの市の方が施設管理をしている小学校については総務課の方で今も管理をしている。この小学校跡施設の関係に関しては基本的に地域活性化センター7校だけではなくて11校すべてをどうしていくか総務課が所管をしているところで、南丹市小学校跡施設利活用推進本部会議で一括して令和7年度以降どうしていくかと協議をいただいている。併せて各小学校ごとに協働担当職員として基本的には部長級の職員を各学校に2名ずつ配置をし、市と施設管理者との橋渡しの相談役をしている。併せて地域振興課所管施設では今後の相談を聞くことも当然あり、協働担当職員が会議に毎回出席して色んなご意見なり、ご相談をいただいている現状もある。令和7年度以降に関してはまず指定管理を一旦終わって、そこからどうしていくかを考えたいという市長の意向で地域の方には示している。

ただ、先程ご意見いただいたように、学校によって当然、建物の年数や立地条件が違い、それによって利活用の条件が全然違うので。そういった中で有効に活用いただいているところと、なかなか地域で今、面倒みていくのが大変なところに分かれる。当初は市に一旦返してもらるか、地元の方にそのまま譲渡をして引き継いでもらうか話していたのが、その後、市長も各小学校回って、各管理をいただいている指定管理者と協議した結果、それぞれ条件が違うので、一定個別対応していく必要があるという話に。あと2年間指定管理を出すので、その間に方針を出す。課題は施設がかなり古いのので、修繕に多額の費用がかかること。

#### ■観光交流室

座長：

続いて観光交流室にお世話になりたい。観光に力を入れて観光協会とか観光宣伝も10年前のことを考えたら色んなことが大きく動いている。改めて紙では分からない部分をお尋ねしたいという主旨で本日はお越しいただいている。では皆様の方からご質問などいただけたら。

◇2-7 観光宣伝事業(その他宣伝事業)、◇2-8 観光宣伝事業(美山DMO補助)

◇2-9 観光協会事業、◇2-10 観光文化資源活用推進事業、

◇4-13 森の京都推進事業

委員：

1点目は、観光協会がそれぞれ別々にあり、上手く連携できているのか疑問である。連携できつつあるんだろうと思うが、改めて担当者の所感をお伺いしたい。

2点目は、旧町の観光協会はあっても、市の観光協会や戦略が必要と10年ぐらい前は随分言っていたと思うが、それが変わりつつある現状をどう捉えているのか。

デジタルサイネージとか様々な新しい方法での観光PRに力を入れられているという特徴があると思う。非常に数量的に捉えにくいものの、手ごたえは評価表の中で書いてもらっていると思うが、改めて新しいことをやられている効果を業務をされながらどのように認識されているのか。実感を教えていただきたいというのを出発点にしたいと思う。

観光交流室：

まず始めに、観光協会は、南丹市内4町が合併して今現在、5つある。日吉町、八木町、美山町は元々の観光協会があったが、園部はるり溪に特化した観光協会だった。るり溪の観光協会と園部全体をまかなう園部の文化観光協会が2年前に設立され、今、5つの観光協会で活動をしている。それまで個々の活動をされていたが、令和3年度9月に観光協会連絡会を立ち上げ、各観光協会が連携体制を作った。これまで横連携が出来ておらず、各観光協会で行っていることもあったフォトコンテストを、南丹市全ての観光協会で行う事業として進めている。その他、定期的に調整会議を行い、相談体制を整えた。フォトコンテストは、3年間事務局をしていた美山町のDMOから園部の文化観光協会に引き継がれた。この際に、園部の文化観光協会が、美山のDMOからフォトコンテストのやり方、運営方法など学ばれることはプラスの方向になると思う。

委員：

デジタルサイネージ等新しい宣伝を色々されている効果は測りにくいとは思いますが、どう捉えているか。

観光交流室：

令和3年度に立ち上げた「ライフレイル」という、南丹市に興味を持っていただくきっかけをつくるWebサイトがある。月100～200件のアクセスがある。それまでイベントがなかったことで、PRの機会が足りていないかということもある。今後、そういう機会をQRコードを案内するとか、映像を流すという形でPRをしていきたい。

委員：

私が伺いたかったのは、色々な方法で宣伝しているが、実際どれが効いているのか、どんな形で効果を捉えているのか。ということ。ベタな方法はアンケートするとかだが、なるべくソフトな方法で聞いていくしかないと思う。色々な事業者もやっているように、アンケートで「なぜ来たか」を書いてもらうような。そういう声を観光協会とか市役所が捉えていって「デジタルサイネージがきた」とか「HPがきた」とか「どれでもなかった」とか、そういう効果を捉えてほしいと思うが。現状どのようにしているのか。

観光交流室：

アンケートで聞いたこともある。美山DMO、森の京都DMOの調査結果を見せていただくこともある。しかし現状、具体的に何を見てということまで掴めていない。

委員：

今の一連の発言の意図は、本来できる努力をやっておられないという批判ではない。全国誘客をし合っている中で、効果的なPR方法を見出してほしいということ。直球のアンケート調査をする以外の方法で、なるべくソフトに「どの宣伝が効いて南丹地域に足を運んでもらっているのか」効果測定をやるのが知恵の絞りどころだろう。

地域、学生との大学との協働も含めて、大学生に観光しながら聞いてもらって調べるとか、色々考えられる。直球勝負は関所を作って聞いてもいいが、それは嫌だろう。店の人や知り合った人が自然と聞き出すのがいいのではないかと思う。こういう方法で調べた、効果があると分かったといっ

たら、この交付金もらっているべきPR材料になる。先進事例を国は探しているということにおいて、新しい宣伝方法は試されているので、効果測定方法でも、知恵を絞って新しい面白いことをしていただけたらなと思う。

委員：

観光協会ごとに自分たちのテーマを持ってされているというのは感じているが、自分たちが何かやるということだけでなく、お客さんがいつ来ても受け入れられる体制があるのか、観光情報の提供体制が整っているのかどうか分からない部分がある。というのも、協会窓口が閉まっていて何も聞けなかった、という場面に遭遇したことがあったので。協会がそこまで望んでおられないところもあるのか分からないが。

協会が例えば人をずっと配置しておくのが難しくて、受け入れ体制ができないというところがあるのか、ないのか。やっぱり観光協会に人がおらへんみたいな話が起きているとしたらイメージダウンになってしまう。それを協会側が求められるか、求めてないか。求めているかどうかに関わらず、そういうのを整えるのが補助金がないと難しいものなのか。協会ごとの条件が違うと思うが。

委員：

八木はわざどころ PON に聞きに来られる方がいる。

委員：

電話が繋がらないとか、いらっしやらないという所があると、どういうふうに(観光客に)案内しているのか繋がりができない。人を抱えるのが難しいと悩んでいるのなら、上手くこういうもの(補助金)を使って機能する状態を作るのがいいのか。協会ごとの思いが違うと思うが、それぞれ協会でどういう感じなのかなどと思うことがある。美山は整っていると思うが、お客さんにとってどんな感じか、他のところがよく分からないので。

観光交流室：

園部文化観光協会は、常駐職員が見つからず、ランダムに開いている状態で、市役所に問い合わせがあったこともある。最近は、きっちり開けていただけになったかと思う。場所の条件が悪く、今、園部駅の方で案内所ができないか話をしている。

八木観光協会は1人事務の方がいらっしやって、週に3回午前中、市役所の八木の支所で問い合わせ、電話の対応はしていただける。それ以外の日は八木支所で案内していただく状況。

日吉町の観光協会は週に1~2回お休み、それ以外は開けていただいている。日吉駅降りられて美山に行かれる方も沢山いらっしやるので、バスの案内もしていただいたりとか。

り溪につきましては、狭い範囲で、来られた方には案内はしていただいていると思う。そこで飲食店を経営されている方が、観光協会も一緒にしていただいている状況。

美山は週に1日お休みをされているが、道の駅の方で支援されているのと、かやぶきの里の方に、ゴールデンウィークだったり、夏休みだったり、土日に案内所をしていただいておりますし、しっかりガイドツアーの方をしていただいている状況。

以上のように、本当に色々な形がありまして。いつも悩ましいところだが、何とか南丹市全体でもう少ししっかりと案内していけるような体制がとれたらなどは常々思っている。

委員：

今年度から協会内の定例会に市職員の方も可能な時は入っていただけるようになった。南丹市として、あるいは委員がおっしゃったように各観光協会としてどういうお客様を求めめるのか、それにどういう受け止め戦略を立てるのかというのが、まだこれからだと思う。次年度以降、観光の戦略も一緒に作りましょう、みたいなお話も進んでいる。どういうお客様をとっていくのか、それに対してシティプロモーション、映画館でPRの流すのは本当にいいのか。先ほどおっしゃったようにサインージがいいのか、というのは効果測定しながら進めていかなければいけないと思う。

先ほどのお話の中で何を見て美山に来ているのかというのは年に3回、美山町の中でとっている。今、紙媒体はほぼ見られない。美山の場合でいうと一番見るのは美山ナビ。われわれとしても、紙媒体はページを減らしながら縮小してやっているような形に変えている。ツアーの参加者のきっかけを見ている、SNSの広告を見て、なのでチラシはもう刷らないでおこうかという話をしている。このような効果測定をしながら美山の場合はプロモーションをやっているかと思っている。2023年度のインバウンドの予約もようやく入り出したので。その辺りもまた南丹市さんと一緒に連携をしながらプロモーションできればと思っている。

委員：

観光客は地域に入ってきてくださっている大切なお客様で、慎重にやらないといけないが、高校生などにも協力してもらいながら、どうやって来てもらっているのかとか。ぜひ調べてほしいなと期待を言っておきたい。色んな宣伝しているけど何で来ているのだろうかという点は皆が引っかかっている点。そこで、効果測定をやってみるといっても、せっかくお金をもらっている方のお返しというか期待に応える道かなと思うので。高校生達にもこんな地域の魅力があると知りつつ、何で来ているのか語り合った、直感的には盛り上がるような。一生懸命宣伝してイベントを盛り上げてやっていただいているのはよく分かるが、そうした視点もあってもらったら嬉しい。

委員：

森の京都の方が何ができるのか、市単独でできないことは何かというご質問があったので。自問自答すると、なかなかこんな成果出ましたと言えてない。例えば森の京都トレインで、ターゲットング(どういふ方に来ていただきたいとか、何を知っていただきたい)は5市町共通で無形文化財にしている。QRコードをかざすと、「旅インフルエンサー」というライターがポップな情報で、その人の旅目線あるいはその人の訪れる人の目線から記事を書いていただき、どんな物語がここであるのかということを感じていただくような形で発信をしている。これは実は訪れる人だけでなく、日常通勤している人、地域の人に「実はいいとこなんだ」と「こんな知らん部分あるよね」という話をまずは知っていただきたい。コロナ禍で逆に近場の人が非常に多く来られ、単に消費して帰るだけではなくて。アンケート調査の結果、やはり京阪神エリアからリピーターが7、8割あるということがこの地域の特徴。そういった方どういう価値を伝えていくのかという観点と、コロナ前にはどっと増えてきたところもあって、これからということで、もう一回リスタートしていくということ。いずれにしてもまず知っていただくこと、関心を持っていただいて検索していただいて、来ていただいて「また来たいな」という。そういうコミュニティツーリズムみたいな展開がこの地域は非常に重要だと思う。そういうビビットな観光地という発信よりも、どんなことをこの人と出会って、こんなお店に行くと、こんな楽しい価値がありますよということを中心にお伝えをしていった。

## ■商工課

座長：

主に3つの対象事業についてお伺いをしたい。

補足資料でサテライトオフィスの誘致に関して詳しい資料をいただいているのと、創業支援について詳しくご説明いただいているのと、販路開拓推進事業について次々とより詳しい資料を全体的に頂戴しているということです。特にこれらの中で今回1-4-1-5-1-6、この中でご担当の方から強調されたいということが「ここを見るべし」ということがありましたらお伺いしたい。

商工課：

調書に書ききれなかった部分、制度の概要、実績の本当の数字をご覧いただき、実態を確認いただくために補足資料を追加させていただいた。今回、創業支援事業、サテライトなども後ほど少しでも触れていただけたらありがたいが。

### ◇1-4 商工振興助成事業(創業支援)

商工課：

創業支援は、平成28年度から国の創業支援等事業計画に基づいて取り組んでいる。28年度は大きな事業が出来ず、実質は29年度の実績で書いている。商工会さんとタイアップして創業セミナーを開いて、それを次に伴走支援に繋げて創業に向けて出発をしていただくトータルパッケージとなっている。この実績としては、合計で83名の方に受講いただいて、内全工程受講された方は59名。4回の4日セットで丸一日ずっと受講いただくような、厳しい日程を全て受講いただかないと修了証がもらえないというしつらえになっている。

この事業の独自性は、南丹市の特徴はやはり商工会と緻密にタイアップしているということと思う。他の市町村であれば、創業に向けて補助金に重点を置いているところが多いと思うが、私どもは事業計画策定に力点を置いている。廃業の原因を分析したところ、やはり事業計画が不安定なものが事業に響いている。なので、私どもは事業計画ということに重点を置いている。このセミナーを受けていただいた後に商工会が伴走支援を続いて行う。事業計画が確立されたら市の補助金を使ったり、商工会も一つ伴走支援の後に使えるパッケージとして補助制度がある。それで少し基盤を整えていただいて。

スタートダッシュを支援する販路開拓支援事業は、この会議で提案をいただいた事業者の支援制度を活用いただいて創業していただく、安定していただくという一連の流れで考えている。特徴としては一気通貫といいますか、部分部分、パートパートで考えてもらって、商工会の制度と市の政策に合わせてトータルパッケージで事業を展開しているというのが特徴。

委員：

実績を見てすごいとは思いますが、受講者が地域の方なのか、外部から来てこれを受けて南丹で起業しようという人なのか気になる。過去に起業経験がある人が改めてこれを受けてトライしているのか、全くの初心者が初めてこれを受けてやっているのかも知りたい。

都市部沢山ある民間のセミナーと重複していないか。そういうところで自力で受講した人が、この地域で起業することに特化したセミナー等の方がいいのでは。南丹地域における起業のやや応用編的な内容になっている方がよいのではないのか。

商工課：

参加者の約9割は南丹市内在住の方。移住をされたばかりの方もいらっしゃった。専門家に、地域資源を使ったビジネス展開手法を指導いただいている。一般的な資金の流れなど定番の内容から、地域政策論にも触れたようなしつらえとしている。

中には第二創業という方もいて、全員が全員、初めてというわけではない。一步踏み込んで専門的なところ、ビジネスのエリア的な考え方という視点から事業計画をもう一度見直すという目的で、第二創業の方も参加をしておられる。

委員

講座の内容は一般論が主になるのか、それとも各々の事業計画、コーチングのようなものが主になるのか。

商工課：

一般論を教えながら各々の事業計画を考え、最終日に皆さんプレゼンをなさるような形。ご自身の事業計画で「やりたい・やります」という発表をされ、それに対して皆さんからまた意見をいただく。

委員：

講座は傍聴や見学ができるのか。皆に見てもらったらよい。大学生や高校生にも見せれば、地域特性を踏まえてシビアにどう事業化していくのか理解が進むのでは。

商工課：

ぜひ見学いただきたらと思う。この国際交流会館にてコロナで人数制限を15人としているので、会場内は余裕がある。以前からご意見をいただいていた経緯もあるので、お断りする理由は全くない

委員：

商工課とのご相談になる。また外部の方にも積極的に宣伝していただきたらと思う。

## ◇1-5 南丹市販路開拓支援事業

商工課：

販路開拓事業は、今まで企業が展示会に出展される際、今まで一般的な展示会への出展を対象としていたが、前々回この会議で、起業者向けの展開について意見をいただき、昨年度から起業者のメニューをつくった経過がある。大規模展示会等支援事業と起業者販路開拓支援事業という2種展開で、条件が少しずつ違う。起業者の方は10分の10で10万円、上限額は少なく、負担が少ない形。大規模展示は、都市部で展示をなさる大企業向けに出店経費のうちの少しでも支援させていただく内容。KPI・実績で言うと近年、コロナ禍の影響で展示会が激減し、少ない件数の中でKPIの商談数を上げている。

デジタル展示会にも適用できるパッケージにしてはどうかというご意見を頂戴しているが、地方創生臨時交付金で販路開拓緊急支援事業として別の支援を設けている。こちらはより柔軟なパッケージなので、デジタル展示会であればこちらをご活用いただきたい。昨年度の活用件数は大規模が4件、起業者が2件で、コロナの拡大で展示会の回数が少なく、実績数としては少なかったが、例年販路開拓であれば、予算上限まで達成してしまうような状況が見受けられる。

## ◇1-6 南丹ブランド推進助成事業

商工課：

南丹ブランドの推進助成事業。農産物を中心にブランドを作りたいという流れだったが、次のフェーズに進め、南丹ブランド推進助成事業と。推進事業によって作られたブランドを普及させる為のモデル事業、定着させるためのイベント事業という、制度設計にしている。モデル事業は販売の仕組みを作られる時の支援制度になっている。定着イベント事業の実績は、南丹PAにおいて南丹ブランドの野菜を販売されたという実績1件。

振り返りとして、やはり南丹ブランドの定着というところにはなかなか難しい部分があると思っている。課題として、オリジナルブランドであるかどうか。ブランドの確立というところでは、まだちょっと弱いと思っている。補助金だけでブランド推進はできないだろうと思っている。

委員：

以前、行政評価では京野菜ブランドの方がよいのでは、と話題になっていたが、南丹ブランドとして進んでいるのはよいことだと思う。ただ、京丹波町の栗ほどのイメージ定着はない。南丹パーキングエリアのイベントを目撃したが、ある日突然店が建って、置いてあるもの自体は悪くないが、南丹PAは仕事でしか寄らない場所なので、観光客をターゲットにするなら違う場所でやることも検討を。南丹PAでやるなら宣伝が必要。直射日光の当たり具合も気になるし、場所や内容等色々検討されたらよいと思う。

委員：

ブランド化は難しい課題だが、PR方法は工夫の余地があると思う。そこをぜひご検討いただきたい。創業支援については、銀行窓口でも創業支援のご相談を受ける。事業計画を銀行の目で見せていただいている。専門的な立場の見方をされていて、それは銀行の役割だと思っている。南丹市が創業支援をして伴走の制度をとられるという点については銀行としてもありがたい。協力して取り組みたい。

委員：

いきなり金融機関で専門的な資金計画をつくる前に、市のセミナーで勉強してもらっている方が当然よいと。

委員：

どういった対応していくか、具体的には窓口でご相談したい。

委員：

単に南丹市産の農産物を南丹ブランドだと言ってもなかなか普及しない。1つ目は、流通させるために一定のロットが必要だが、どの品種で狙っているのか見えにくい。2つ目に、販路開拓とセットで取り組んでもよいが、付加価値をどう高めていくのかということ。新規就農者が定着するには自分の販路を開発することが必要。答えは一貫支援すると見えてくるようにも思う。様々な事業者とのマッチングなど。そのような動きはあるか。

商工課：

広報は主に商工会を通じて実施。市内 1,100 程度の事業者のうち、774 事業所が商工会加盟。加盟事業者以外への広報は弱いと思う。商工会を通じた方が一貫した支援ができて非常にやりやすく、事業者も助言も受けやすい。課題としては非加盟事業者にインセンティブを与えてでも商工会に加盟いただくのではなく、事業者支援をしていく責任の部分の問題。ひとつの事業だけでは成果は小さいので、やはりご示唆のとおり支援を複合的に実施していくパッケージで進めていきたいと思う。

委員：

農業者も商工会に加入できるか。

商工課：

農業者は基本は小規模事業者。法律に基づき様々な細かい住み分けがあるが、個人事業主かつその事業体で加工もされていれば入れると思う。農園名義で加入されている事業者もある。

### ■令和3年度交付金事業の評価確定

座長：

ここから予め各委員の皆さんにつけていただいた評価を総合して当会議として評価確定していく。基本的に効果的であったか否かということ、どの程度有効だったかというひとつの軸で評価している。「有効」とは、意図や狙い通りに地方創生に資する機能をしたのかを見ている。そこに加えて、必要性、値打ちがあったかという要素を少し加えている。例えば、アユ釣り大会開催し、若い女性から発信させようという取組が数年前にあったと思うが、あいにく台風が来てやれなかった。そういう新しいチャレンジに対してこの会議から助言をする。それが担当者としては概ね全部上手いったというご認識をお持ちだが、委員から見てどうかチェックしていく。素敵な事例については全国的に参考にしてもらい、南丹発信で全国に少しでも広がっていく可能性があれば高評価になる。

以上のようなことで、①～⑤の事前判定をいただいているので、会議として確定していく。基本的には数が圧倒的に多い事業はその判定になるが、そういう場合でもせっかくなので意見をいただき、評価理由を改めて強調していただければ、そういうご発言があったという記録が残っていくということ。少数意見になることは全然気にせずにご意見いただけたら。事前判定がばらけている事業や、2つが同数の事業の場合はどちらがよいのか、より積極的にご発言願いたい。

#### ■1-1 評価：①

委員：

特に何もなければこのまま①でよいと思う。ご意見は既にご書いていただいている。

#### ■1-2 評価：②

委員：

特になければ②で。

#### ■1-3 評価：①

委員：

南丹市的にはよかった、で終わりでよいが、全国あちこちサテライトオフィスを誘致している中でこの

地域ならではのよさみたいなのがあれば。

委員：

都市部に近い割に自然が多い、企業にとっても通いやすい、リフレッシュになる等 PR できるところ  
がもっとあるのでは。テレワーク、ワーケーションで注目してもらえたら。

委員：

ワーケーションは期待ができる。舞鶴では赤レンガ倉庫を改修して企業や大学が入れる、同じく府  
大が関わっている宮津にも前尾記念図書館が改装された前尾クロスワークセンターという企業がいっ  
ぱい入っている。いわゆる掛け算的取組を期待する。南丹でもサテライトオフィスで来ておられてい  
る方と地域の交流が増えたらと思う。

#### ■1-4 評価:②

委員：

専門的な意見ではないが、やはり特色をいかして創出していくにはこの事業が有効であったのかな  
と思う。

#### ■1-5 評価:①

委員：

利用が多いのは確かだが、企業にとってはやり慣れた仕事で費用負担だけ市がしてくれるから嬉し  
いという程度に収まっていないか。「市がこういうのをやってくれるなら打ち出していこう」となる取組が  
理想だが、そういう事業ではない。企業としてやるべきことを自前の費用でやるか市の費用でやるか  
の違い。

委員：

②にしたが、コロナ禍でもあり効果の見方が難しい。①でもよい。

委員：

第1期のときも爆発的に実績があったのだが、単に市が企業の取組を掘り起こしただけではない  
か？という疑いがあった。

しかし、ヒアリングを通じてそうではないと確認できた。

委員：

新規と住み分けができてるのがよい。

#### ■1-6 評価:③

委員：

ブランド化には戦略が必要で、観光ではかなり注力することだが、ヒアリングで聴く限りそこまで振る  
っていない。市で取り組みればよい分野。あえて南丹ブランドを新しく作る必要性を感じないので、事前  
判定は③か④にしていたと思う。

委員：

ヒアリングでも伺いきれなかったが、どこまでを目指すか。京野菜でなく南丹野菜というところまでいこうとしているのか。南丹だったらコレ、というぐらいのイメージ付けまでするのかで、かなりニュアンスが違う。HPの発信等もやっていくという程度の意味なのか。

委員：

南丹市は生産量で勝負できないので、ブランド化は必要。「ブランド化」と言い切って発想が止まっているか、南丹の特色とは何かという掘り下げがないまま、ブランドという言葉だけが一人歩きしていないか。かみ合っていない気がする。南丹ブランドは何か、という掘り下げをしなければいけないので、それを名目とする事業だけをやっても効果が薄い。

中山間地域なのでブランド化は必要。でない産業としては成り立たないという思いはある。

委員：

全体的な皆様のご意見の中では、その文字通りの意味のブランドというところまで高めるのは厳しい面があるだろうという感触をお持ちの方が多。そんな中で南丹のいいものぐらいのレベルの物ぐらいなら当然あり得るやろうし。そういうものを目指すなら目指すでもう少し戦略を固めて頑張るって欲しいということでしょうね。③か②か。

委員：

③だと思います。①と②ではないと思います。

#### ■1-7 評価:①

委員：

ものづくりは体験、体験して初めてハードルが下がる。有効とは思いますが、体験の場がもっと必要。

#### ■1-8 評価:①

委員：

これは①が7名と多いが、一方で④にされている方もいる。

それぞれの観点から気付くこと・見えること・知っていることは違うわけなので、出していただけたらと思うが、異論ないように①で確定する。

#### ■1-9 評価:②

委員：

これは②が6名と特に多いので②とする。

#### ■1-10 評価:②

委員：

今のやり方だけでは上手いかなくなるのではないかと。イベントに出すお金が多い。買い物しやすい、事業者負担が減る効果はあると思うが、それだけで商店街は成り立たないので、商店街をこれからどうしていくとかか今後繋がる話し合いや取組の検討をした方がよい。

## ■2-1 評価:①

委員:

前回も言ったが、空き家ができてからの対策では遅い。自治会が空き家対策について住民に訴えて我が事と捉えてもらうような啓発が必要。地域に責任感や危機感が弱い。事業として外向けの発信に寄り過ぎている。

委員:

言いにくいことだが一定の話はして、予防的に住民の皆さんに考えていただく。アイデアとしては住民の方に一層、我が事と捉えてお考えいただけるような取組もいるのではないか。

## ■2-2 評価:①

委員:

無くすことはできない事業だと思う。

委員:

移住希望者の相談を受けるのが主な業務だと思うが、掘り起こしにもっと予算や人材をかけられれば。

委員:

集落の教科書の件で話をしたことがある。

## ■2-3 評価:①

委員:

何回生が来ているのか。

委員:

制限はないが、3回生に声をかけていることが多いが、去年は2回生、今年は4回生も。勉強してきたことが現場でどう使えるのか。

## ■2-4 評価:②

委員:

色々取り組んでいるが、効果のエビデンスがない。

委員:

どこで流すのが効果的なのか、中途半端な田舎で流しても効果が薄いのでは。映画館で流すというのは凄く効果があつていいとは思いますが、心に響く地域はどこか。制作した当事者側としてはターゲットを明確に作ったので、使い方の戦略が欲しかった。取組自体はよかったと思う。

委員:

最新の映画を見ようとする人にこれを先に見せるのが果たして有効なのか、どこで見せるのかが重要とは思う。

委員：

事業としては必要とは思いますが、対象が限定的過ぎる。また工夫をして欲しいという思いも入れて③にしたが②でもいい。

委員：

南丹市を知ってもらうことが大事なので、①とした。

委員：

①にしたが、ご意見を受けて②でもよかったという思いもある。

委員：

主観に寄り過ぎているかも知れないが、茨木人は茨木大好き、大阪は地元愛が強いので、学生に見せた方がよかったかも知れない。

#### ■2-5 評価:①

委員：

②にしたが、PRというのは本当に難しい。どこに出すか。中途半端な都会ではなく、都市部で広報されたので評価はしている。

委員：

京都駅の地下に出ていると印象がよい。個人的には好きである。

委員：

①にした。大きなPRは民間やDMOではできない。しかし、効果測定は難しい。効果はあるのだと思うが。最後に書いているように、調べた人がちゃんと行きたい情報に最終行きつけるかというところは別の事業と連携をしてやっていく必要があると思う。

事業自体は非常に効果があるものだと思う。

委員：

効果、というところとも言えないが、広報手段としての住み分けが必要だと思うので。そういう意味では①とか②。

委員：

2-4を②にしたことを踏まえ、判定に迷うところ。効果測定で知恵を絞って協働しているという意見もあるが。

委員：

2-4とは性質が違う。茨木を移住者のターゲットとして戦略的に根拠が持って決めていないと思う。感覚的なものか、業者の都合では。作られたもの自体はきっと素晴らしいものだったと思うが、流す場所がここでよかったかという点に再考の余地があると思う。

委員：

同感である。電車広告のターゲットは不特定多数、色んな方が乗られるので。

委員：

積極的な発言があったので①とする。

#### ■2-6 評価:②

委員：

中止リスクを指摘されているし、実際に繰り返されている。

委員：

開催目的が市内向けか市外向けなのかわからなくて評価が分かれているのでは。市内向けのイベントならよかったのでは。

委員：

南丹ファンを増やすという目的には合わないのでは。地元の誇り醸成なら評価できる。どちらが目的か。対象は。

委員：

交付金をもらえたらよい、ということではない。外部が喜ぶ大規模イベントは中止のリスクがあることを踏まえ、③に近いニュアンスはあるが②でどうかと。

今後の意見として、当会議の議論としては、出身者が戻って来た時に地域の良さを感じるようになるか、あるいは外部に対してやるならしっかり人が呼べるイベントにする、ということ意識して欲しい。そしてまた、中止リスクはあらためて意識して欲しいということが出た。

#### ■2-7 評価:①

委員：

これは色々ご指摘、目についた点は言っているが、①が多かったのでそのままよい。御城印をやっているけど、どこでやっているのか。それぞれ貴重なものだと思う。

#### ■2-8 評価:①

委員：

これは①の方が多いので①とする。

委員：

今後の財源が不安であるが、このままの予算が出来ればよいと思う。

#### ■2-9 評価:①

委員：

留意点は改めて言ったし、ヒアリングもして一定通じたのではないかな。

将来的に、より一体性を持って活動できるのか、メリハリをつけられるのか、という課題はあるが、①とする。

■2-10 評価:②

委員:

実際に市の色々な文化観光物を映像化したものを、観光客が現地で読み取って見るという事業で、制作に関わった。

実際にその後、実際の活用に至っていない途上なので私は②にしたが、やっていること自体は観光客が色々なところでサイクリングをしながら伝統文化を知ることができるので、続いていくべきことと思う。

■2-11 評価:①

■2-12 評価:①

■2-13 評価:①

委員:

長年に渡って取り組んでいただいた。

■2-14 評価:①

委員:

④の方から特に意見がないため、①とする。

■4-1 評価:①

■4-2 評価:①

■4-3 評価:②

委員:

事業費に対して成果が限定的。お金が出たイメージなので、①ではないと思う。

委員:

誰もが利用しやすい事業であるべき。

■4-4 評価:①

■4-5 評価:②

委員:

これは①と②が割れ、物凄く有効であったという発言がない中でどちらともいえないという人もいるので、②にしたい。

#### ■4-6 評価:②

委員:

実際令和7年度からどうなるのか曖昧な説明であった。

市が直接管理している4校は用途が決まっていない、7校も市がお金を出しているからどうにかになっているがその後はどうなるのかと。

#### ■4-7 評価:②

委員:

結局、コロナ禍で利用者が1、2人しかないものが有効なのかという疑問を持っている。南丹市でどんと構えているだけで学生が自分で調べて南丹に来るかといえば、来ないだろうと。折角色々と考えて10万の枠を設けて学生にとっているのに。

委員:

よい取組とは思っていたが、枠が小さすぎて手が出ない。実績の事務作業も負担。

委員:

高校の総合的な探求支援の場について何度も宣伝しているが、高校生の方にやってもらう方がよいのでは。そういうことをせずにひたすら枠があるから待っています、では来ないだろうとしつこく言っている。後の大学等連携推進事業もそうであるが、大学側で一生懸命学生に声をかけて手を挙げさせたのに、書類のチェックが厳しくて、形式面を重視し過ぎている気はしている。そこに改善がある。これは②にしよう。

#### ■4-8 評価:②

委員:

判定は分かれている。今日ヒアリングもしてご説明いただいた上で色々不安もあるが、「大丈夫です」と言われたらそれ以上どうしようもない。

委員:

府庁にもあり、南丹局エリアにもり、市もあって、アクセスしやすいところを利用してもらえたらよい。相談員もそれぞれ強みがある。オールマイティーではなくて、それぞれの相談員の強みを活かしてやっていくので、相談員のマッチングをしてもらったらよいのかなと思うのが1点。

少し物足りないのが、やはりマッチングができれば、もっと地域密着型の活動を支援するようなアクションが大事かなと思う。センターの方もテーマ型と地縁型に分けて、特に田舎だったら後者が大事と思っているので、期待したい。長くやってはこられているが、そのあたりの実態は十分には把握しきれしていない。

委員:

私は今日の話を聞く中で②かなと思う。

委員:

②にしようという意見が多いので②とする。

■4-9 評価:①

■4-10 評価:②

委員:

現時点では有効と思うが、やり方を考えないといけないと思う。

委員:

あまり先延ばしにしてもしょうがない問題と思うので②。

委員:

高齢化・少子化が進む中、郷土愛をテーマにうちの地域もされているが、皆あまり行かない。コロナの影響もあるが、実際に行った人の評価が高くないので、その声が広まったら余計に足が遠のく。

してくれている人は頑張っているが、②にさせてもらった。

■4-11 評価:②

委員:

②にした。なかなか数字として表れるのは難しい取組と思う。市民の方が来る機会が増えている部分、特に若い人を中心にアートで魅力を発信するという意味では①と言えなくもない。

■4-12 評価:①

■4-13 評価:①

座長:

今年度の評価の確定ができた。今後の進め方等は事務局に確認していただくとして、私の方から最後に所感として。

ご協力を得て評価ができ、ヒアリングも急に呼び出して聞くという難しいことをご対応もいただいた。私も久しぶりにやったので、つい興奮して色々と言っているが、こういう場が毎年あるという認識で意見交換、実情を聞いたりしたものを活かしていただけたらと思う。

南丹市には、沢山の交付金事業とっているということや、評価をこういう形でヒアリングも含め充実してやっているという点が特色であろうと思うので、活かしていけたら。

#### 4、その他

・事務局からの連絡事項

#### 5、閉会

■事務局からの連絡事項

・年度内会議は今回で終了の予定